

現代水戸学論批判
目次

まへがき	1
第一章 水戸学と徂徠学——尾藤正英氏の所論に寄せて——	12
はじめに	12
一 尾藤正英氏の主張	12
二 義公光圀の意図と幽谷の真意	18
三 徂徠学と国学	23
四 徂徠学の流行	25
五 長久保赤水の学問	29
六 徂徠学の検討	32
をはりに	37
補註	39
第二章 水戸学と徂徠学・再論——吉川幸次郎博士の所論に寄せて——	40
はじめに	40
一 問題の所在	40
二 A・B論文の主旨	42
三 徳川光圀の「中国」観	50
四 徳川光圀と荻生徂徠の相違	54

	五	徳川光圀の思想の継承	57
		をはりに	60
第三章			
		『大日本史』続編に関する一考察	
		——特に『倭史後編』をめぐって——	
一	63	問題の所在	63
二	65	義公光圀の意図に関する所論	65
三	69	『倭史後編』の問題(1)	69
四	73	『倭史後編』の問題(2)	73
五	77	『倭史後編』の問題(3)	77
六	83	「寄泉竹軒佐竹暉両総裁書」の検討	83
七	87	『倭史後編』問題の帰結	87
	90	補註	90
第四章			
		水戸学の歴史思想——儒教的歴史観をめぐって——	
		はじめに	92
一	93	儒教的歴史観とは何か	93
二	95	儒教的歴史観とのかかはり	95
三	99	革命論の問題	99

四 時代区分の問題

をはりに

第五章

「水戸学」の連続性について——前後期「断絶」論批判——

はじめに

一 「水戸学」とは

二 野口武彦氏の主張とその批判（1）

三 野口武彦氏の主張とその批判（2）

四 野口武彦氏の主張とその批判（3）

をはりに

第六章

打越樸斎と「樸斎正議」

一 打越樸斎の人となり

二 「樸斎正議」とはどのやうな史料か

三 「樸斎正議」をめぐる論争

四 「樸斎正議」の主張と藤田幽谷の評価

五 「樸斎正議」の意義

補論 『大日本史』編纂における「近世」の意味

第七章 安積澹泊の史論——「帝大友紀議」をめぐって——

はじめに……………157

一 「帝大友紀議」の成立……………157

二 「帝大友紀議」の論点……………159

三 『大日本史』の評価……………162

四 「帝大友紀議」の意義……………165

補註……………168

第八章 安積澹泊の史論——「北条政子伝」の成立をめぐって——

はじめに……………170

一 往復書案の考察……………171

二 「平政子」論の考察……………178

三 『大日本史』の北条政子伝について……………180

四 「北条政子伝」と「平政子」論の関連とその意義……………183

をはりに……………185

第九章 安積澹泊と徂徠学……………187

はじめに……………187

一 安積澹泊と徂徠学派の交流(1)……………187

二	安積澹泊と徂徠学派の交流 (2)	190
三	安積澹泊と徂徠学派の交流 (3)	196
四	安積澹泊論の是非	198
五	『烈祖成續』の序文と安積澹泊の思想 をはりに——安積澹泊の徂徠学派接近の意味——	202
	註及び補註	205
	註	207
	『正名論』成立の時期	212
一	十六歳説と十八歳説	212
二	二説成立の根拠	214
三	十八歳説の背景	217
四	幽谷学の確立	220
	註	222
	第十一章 『修史始末』における「論贊」関係記事をめぐって	223
一	問題の所在	223
二	鈴木氏説の検証 (1)	225
三	鈴木氏説の検証 (2)	228
四	『修史始末』における「論贊」関係記事の性格	230

五	むすび	234
	補論 『修史始末』 享保十九年の条について	235
第十二章	藤田東湖の国学——吉田俊純氏『水戸学と明治維新』に寄せて——	239
	はじめに	239
	一 水戸学の「異端」と「正統」	239
	二 徂徠学との関係	246
	三 『及門遺範』にみる非徂徠学的要素	250
	をはりに	254
	補註	254
第十三章	芳賀登氏『近代水戸学研究史』を読む	257
	一〇七	
付 章	山鹿素行の革命論をめぐるつて——尾藤氏説批判——	270
	初出一覧	278
	あとがきにかへて	279

※本データの全部または一部を無断で複製・転載・改竄・公衆送信・本データを第三者に譲渡することは有償無償に関わらずご遠慮ください。

個人利用の目的以外で複製や第三者へ譲渡は著作権法などの関連法によって禁止されています。